

No. 390【2020年1月17日配信】

青森駅3代目駅舎の建設(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室では1月9日から新しい館内展示「青森駅とともに―現駅舎誕生から60年―」を始めました。この展示は昨年12月に青森駅の現駅舎が誕生から60年を迎えたことを受けて企画したもので、明治24年(1891)の初代駅舎誕生から現在までの約130年の駅舎とまちの歴史を取り上げています。

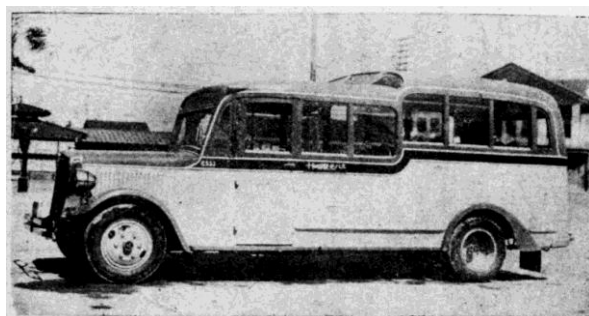
そこで、今回はこの展示の中から青森駅の3代目駅舎(昭和10年〈1935〉～昭和34年)についてお話ししたいと思います。



青森駅の3代目駅舎(昭和33年『市勢要覧』)

3代目駅舎の建設に向けて青森市が動き出すのは昭和8年のことでした。以前から駅舎の整備は市にとっての懸案事項とされていたようですが、この年、市会は鉄道省が昭和9年度に青森駅を改築する計画を立てているという情報をつかみました。11月11日の市会で箱崎吉次郎議員が駅舎整備に対する市会の意見を鉄道省に提出したいと述べると、全員が賛成し、実行委員を決めて建議案をまとめることになりました。また、北山一郎市長も駅舎改築については賛成で、実現を期したいと述べています。

市会がまとめた「駅拡張建議案」(『東奥日報』11月12日付に掲載)には、混雑解消のために乗車改札と降車改札を別にする、化粧室や食堂を設けること、駅の東西を結ぶ地下道を建設すること、駅前広場を拡張することなどが要望として盛り込まれています。このうち、駅前広場については市営バスや「目下実施の予定中なる十和田省営自動車」の発着停留所を設けたいとしています。



省営自動車十和田線で使われていた車両
(省営自動車十年史刊行会編『省営自動車十年史』
1940年、国立国会図書館デジタルコレクション)

省営自動車とは鉄道省が運行する路線バスのことで、のちに国鉄バスとなり、現在は JR バスが運行を引き継いでいます。実は、鉄道省では昭和 8 年頃から青森駅と十和田湖を結ぶバス路線の整備計画を進めていました(昭和 9 年 8 月運行開始)。鉄道省が青森駅の整備を計画した背景には、バス路線の開設による駅利用者の増加に対応しようというねらいがあったと考えられます。



省営自動車十和田線のルート
(鉄道省編『全国乗合自動車総覧』1934 年、
国立国会図書館デジタルコレクション)

3 代目駅舎の建設工事は昭和 9 年 11 月に始まり、翌年 4 月に完成しました。工事を担当したのは青森市の成田文吉でした。駅の東西を結ぶ地下道の建設は実現しなかったものの、市会の希望通り乗車改札と降車改札は別になり、洗面室や喫茶室が設けられました。4 月 19 日には青森市・青森商工会議所主催の「青森駅改築落成祝賀会」が市公会堂で開催され、関係者が駅舎の完成を祝いました。

そして、この駅舎は昭和 20 年の青森空襲で焼失を免れ、昭和 34 年まで使われました。

※今回の内容は『東奥日報』昭和 10 年 4 月 19 日付などを参考にしました。